

タッチパネルとその構成部材の世界市場を調査

【2013年予測】

タッチパネル市場は約3,000億円、携帯電話・スマートフォンへの搭載増が拡大を牽引
 ノートパソコンのおよそ4台に1台はタッチパネル搭載...「Windows 7」が普及の契機に

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、タッチパネルと電子ペーパー、及び、これらのデバイスを構成する部材の世界市場を調査した。その結果を報告書「2009 タッチパネルと構成部材市場の将来展望」にまとめた。

この調査では、抵抗膜式タッチパネル、投影型静電容量式タッチパネル、表面型静電容量式タッチパネル、電子ペーパーのデバイス4品目と、ITOフィルム、偏光板、粘着テープ、電極ペースト等構成部材30品目について、需要動向及び今後の方向性を明らかにした。

<調査結果の概要>

1. タッチパネル市場（抵抗膜式₁、静電容量式₂）

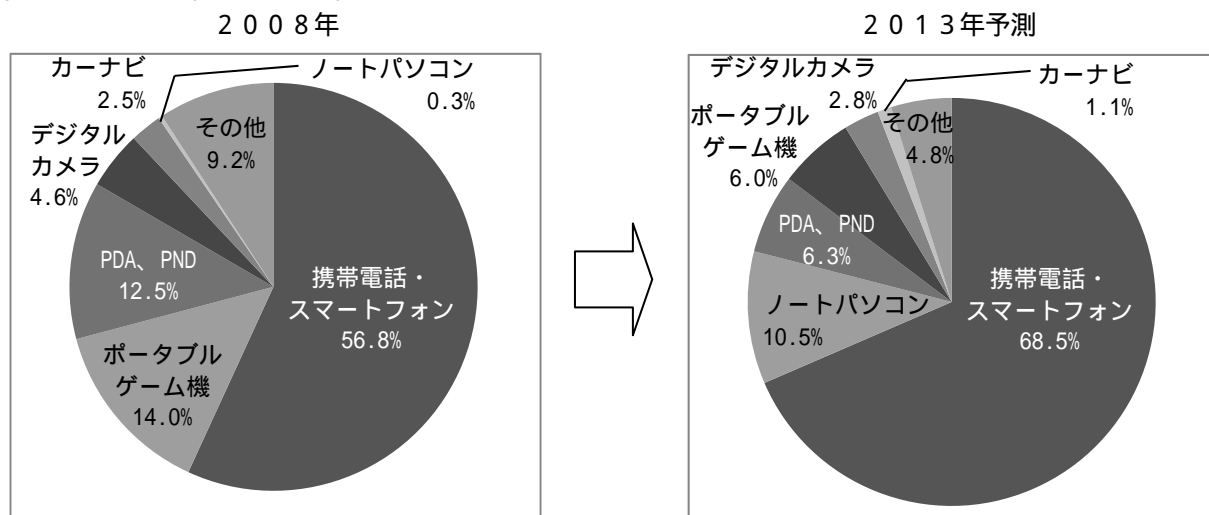
1) 全体市場

	2008年	2009年見込	2013年予測	13/08年比
数量	2億3,980万枚	3億 597万枚	5億9,364万枚	247.6%
金額	1,225億円	1,584億円	2,915億円	238.0%

タッチパネルは携帯電話・スマートフォンやポータブルゲーム機、カーナビ（カーナビゲーションシステム）銀行のATM等多岐に亘る機器に搭載されており、私たちの生活に身近な存在となっている。2008年の市場は、数量ベースで前年比31.9%増の2億3,980万枚、金額ベースで前年比31.6%増の1,225億円となった。Apple社の「iPhone」のヒットを契機に、携帯電話・スマートフォンへのタッチパネルの搭載が急増し、市場も急拡大した。中でも「iPhone」に採用された投影型静電容量式タッチパネルの市場は、数量、金額とも前年比3倍以上も成長した。

利便性の高いインターフェースが実現出来るとして、タッチパネルの認知度は高まっていることから、景気後退下にある2009年も携帯電話・スマートフォン用途で旺盛な需要があり、市場は2008年と同程度の成長率を維持すると見込まれる。今後はノートパソコンやデジタルカメラ（デジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ）への搭載も広がり、2013年には数量で6億枚近く、金額も3,000億円に近い市場規模が予測される。

2) 用途別構成比（数量ベース）



タッチパネル市場をその用途別に見ると、2008年は携帯電話・スマートフォン用が過半数を占めている。次いで任天堂「ニンテンドーDS」に代表されるポータブルゲーム機用、PDA (Personal Digital Assistants) や PND (Personal Navigation Device) 用となっている。

携帯電話・スマートフォン用は今後もタッチパネル市場を牽引し、2013年には市場の7割近くを占めると予測される。2008年の時点では、携帯電話・スマートフォン全体の11.3% (数量ベース) にタッチパネルが搭載されている。現在は抵抗膜式が中心だが、2010年には投影型静電容量式の搭載枚数が抵抗膜式を上回る見通しである。以後、両方式とも需要を伸ばし、2013年には携帯電話・スマートフォン全体の31%にタッチパネルの搭載が予測される。

また、ノートパソコンやデジタルカメラにもタッチパネル搭載の機運が高まっており、今後の需要の増加が期待される。特にノートパソコン用は、2009年10月に発売されるMicrosoft社の次期OS「Windows 7」がマルチタッチ₃に対応していることから投影型静電容量式が急成長していく他、現在採用実績の多い抵抗膜式もペン入力が可能なことや低コストといった利点を生かし需要を伸ばしていくとみられる。2008年時点の搭載率はノートパソコン全体の0.5%に過ぎないが、ネットブックを中心に搭載が進むことで2013年には23.5%まで拡大、携帯電話・スマートフォン用に次ぐタッチパネルの一大用途になると予測される。

- 1 抵抗膜式：携帯電話・スマートフォンのほか、ポータブルゲーム機、デジタルカメラ、カーナビ等に採用されている。原理が単純なため低コストで生産できる。指以外にペン入力も可能である。
- 2 静電容量式：投影型と表面型に分類される。投影型は6型以下のディスプレイに多く用いられる。現在は携帯電話・スマートフォンでの採用が大半である。指以外での入力は不可だが、マルチタッチによってより感覚的な操作が実現できる。表面型は10型以上のディスプレイに多く用いられる。アミューズメント機器や券売機・KIOSK端末、FA機器等に採用されている。
- 3 マルチタッチ：多点検知。複数の点に同時に触れて操作することができる。

2. タッチパネル構成部材市場

	2008年	2009年見込	2013年予測	13/08年比
金額	741億円	782億円	1,264億円	170.6%

タッチパネルを構成する部材24品目を対象とした。2008年の市場は、前年比3.8%増の741億円となった。タッチパネル市場の拡大に伴い、部材の需要も堅調に推移している。電極基板に使用される透明導電性ガラスとITO₄フィルムの市場規模が大きく、この2品目で部材市場のおよそ半分を占めている。

今後もタッチパネル市場の拡大に連動して部材の需要も増加し、2013年には1,200億円以上の市場規模が予測される。

- 4 ITO: Indium Tin Oxide = 酸化インジウムスズ。高い可視光透過性と導電性を有する。

< タッチパネル主要部材 市場動向 >

1. ITOフィルム (ドライコーティング)

	2008年	2009年見込	2013年予測	13/08年比
金額	236億円	234億円	411億円	174.2%

ITOフィルムは、PETフィルム等の透明なベースフィルムにITOでドライコーティングされた透明導電性フィルムである。

2008年の市場は、携帯電話・スマートフォン用やポータブルゲーム機用タッチパネル向けの需要が牽引し、前年比13.5%増の236億円となった。2009年は数量ベースではプラスを維持するが、韓国や台湾のメーカーが低価格製品でシェアを伸ばしていることから、金額ベースでは微減の234億円が見込まれる。

ITOフィルムは透明導電性ガラスと一部競合しているが、コストダウンや搭載機器の軽薄化という面ではITOフィルムが優位であり、これらの要素が求められる携帯電話・スマートフォン用タッチパネル向けに需要の増加が見込まれる。特に投影型静電容量式タッチパネルでは、これまで透明導電性ガラスが主流であったが、今後はITOフィルムの採用も増えていくとみられる。しかし、低抵抗、色調等の面では透明導電性ガラスが依然として優位にあることから、用途によってすみ分けがなされていくと考えられる。

2. 粘着テープ

	2008年	2009年見込	2013年予測	13/08年比
金額	21億円	26億円	37億円	176.2%

タッチパネルを製造する際に用いられている粘着テープを対象とした。

2008年の市場は、前年比10.5%増の21億円となった。抵抗膜式用、静電容量式用ともメーカーの新規参入が相次いでいることから価格競争が激化している。抵抗膜式用は数量ベースでは前年を上回ったが、金額ベースでは下回った。静電容量式用は同方式タッチパネルの急成長に伴って大幅に実績を伸ばしたものの、金額ベースでの成長率が数量ベースより低い結果となった。

今後もタッチパネル市場の拡大と連動して、粘着テープの需要は増える見通しである。特に、タッチパネルの搭載率上昇が見込まれるノートパソコンは、比較的ディスプレイサイズが大きいことから粘着テープの使用量も多く、その動向が粘着テープ市場にも影響を与えると考えられる。一方、メーカー間の競争が激化し、価格の下落に拍車がかかる可能性もある。

以上

<調査対象>

デバイス	
1.抵抗膜式タッチパネル 2.静電容量式タッチパネル(投影型)	3.静電容量式タッチパネル(表面型) 4.電子ペーパー
構成部材	
<u>タッチパネル部材編</u> 1.透明導電性ガラス(全体) 1-1.透明導電性ガラス(抵抗膜式) 1-2.透明導電性ガラス(静電容量式) 2.I T Oフィルム・ドライコーティングタイプ(全体) 2-1.I T Oフィルム・ドライコーティングタイプ(抵抗膜式) 2-2.I T Oフィルム・ドライコーティングタイプ(静電容量式) 3.I T Oフィルム・ウェットコーティングタイプ 4.透明導電性フィルム(ポリマータイプ) 5.透明導電性フィルム(銀系タイプ) 6.C N Tフィルム 7.Z n Oフィルム 8.ハードコートフィルム(透明導電性フィルム用) 9.耐指紋性フィルム 10.デコレーションフィルム 11.自己修復フィルム 12.偏光板 13.位相差板	14.反射防止フィルム 15.視野角調整フィルム 16.粘着テープ(全体) 16-1.粘着テープ(抵抗膜式) 16-2.粘着テープ(静電容量式) 17.粘接着ペースト 18.電極ペースト 19.回路保護材 20.ドットスペース 21.エッチングレジスト 22.異方導電性ペースト 23.異方導電性フィルム 24.フレキシブルプリント基板(タッチパネル用) <u>電子ペーパー部材編</u> 1.透明導電性ガラス 2.透明導電性フィルム・ドライコーティングタイプ 3.透明導電性フィルム・ウェットコーティングタイプ 4.ハイバリアフィルム 5.有機T F T 6.フレキシブルプリント基板(電子ペーパー用)

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献による補完

<調査期間>

2009年7月～9月

資料タイトル	: 「2009 タッチパネルと構成部材市場の将来展望」
体 裁	: A4判 253頁
価 格	: 97,000円 (税込み101,850円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカル&マテリアルグループ TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/